

もやもや会議で抽出された意見

項目	内容
支援の中で、明確な役割分担がないことで困る	・身寄りがない方の場合、役割分担が明確ではない中でどう進めていけばいいのか。 ・おひとり様支援で、認知症キーパーソンなし、みたいなときに包括が全てを担うことになる。整理してサービスにつなぐにしても時間がかかり、その間、通帳を預かったり、通院などもやることに…どこまで誰が何をするのか？があいまい。 ・事業所によっては、「そこまでやる必要がない」と言われることもある。 ・費用発生のない、支援介入拒否のケース対応を担当することになり、包括と役割分担をしても全て担当ケアマネジャーの役割となり、困る。
家族機能が弱く、家族間調整を支援者に求められる	・親族間の関係性の問題ではあるが、疎遠の場合、本来は家族がすることをケアマネがすることになることが多い。
意思決定支援の難しさ	・障がいの医療的ケア児は親が18歳まではサービスを決めるが、18歳以上になると人生会議といって本人と一緒に将来を考える。意思表示や自己決定ができないときにどう支援すればよいか迷う。 ・家族の意向が強い場合に、本人ではなく、家族の意向に沿って決定されるためもやもやする。 ・本人の意思を確認できているのか、支援者側がよいと思う考えに基づいて支援を決めてしまっていないか不安になる。
支援者間の連携	・役割分担をうまくうけてくれない支援者がいるときに、もやもやする。 ・高齢者と障がいのある人の世帯の場合、高齢者の支援者は、障がいの相談員等に障がいのある人への介入をしてほしいと思うが、「本人からの困りごとの訴えが無ければできない」と言われるなど、障がいのある人のペースに合わせることで支援に時間がかかってしまう。それぞれの特性に応じた支援なので、そうなることは理解しているが、障がいのある人の支援が入らないことで高齢者への悪影響が生じることもあり、もやもやする。 ・それぞれの立場で「本人」を捉えて本人の意思を尊重して支援する時の協働の難しさがある。 ・支援者側が皆で協力して関わる、相談できる体制が大切。

業務多忙による弊害	・もやもやを発生させないためにも、自分の中で業務整理をして、時間を作っていく必要がある。
相談機関を知らない	ケアマネジャー:8050 の娘の支援方法、つなぎ先がわからない。
その他	・スモールステップの対応は、同僚や他の同じ立場の人にはできない。 ・一人で支援していくことに不安がある。 ・自分の価値観で決めてしまいがちになる。相手と自分は違う人であり、憶測で決めつけないことが大切。 ・支援対象者本人のことは許容できるが、相性の合わない家族との対応に疲弊する。

もやもや会議のアンケートより

<印象に残ったこと>

- ・アセスメントの視点(あやまったアセスメントを行うことは、場合によっては、偽解決になりうる)
- ・自分の価値観を知る
- ・コミュニケーションパターンを変えるには、どのように自分の感性をマネジメントすればいいのか気になった。

<もやもやが解消されたこと>

- ・多職種の方々と話ができたことが、少しもやもや解消できたように思う
- ・みんなが同じようなもやもやを感じていることがわかりホッとした。

<感想>

- ・色々な方の話や考え、意見を聞いて勉強になった。
- ・芦屋市はこんなにも役所や社協等の人が研修と一緒に参加し、近い関係性でいるのに驚き、また同時にありがたく思った。
- ・すぐに問題解決しようとせず相手を理解したいと思った。

【もやもや会議での意見を受けて】

- ・研修で補えることもあれば、日々の業務の中で各々が意識することで解決することもあるのではないかな。
- ・話すことや、つながりを持つことで、解消されるもやもやもあるため、研修の手法を工夫することが必要。